

DIY 促進に向けた建築関連事業者によるサポートと サポートの利用者の意識に関する研究

Study on the Support for DIY by Architectural organization and Consciousness of Those who Receive the Support for Promoting DIY

○伊丹康二*¹, 永井麻美*², 横田隆司*³, 飯田匡*⁴

ITAMI Koji, NAGAI Asami, YOKOTA Takashi, IIDA Tadasu

This study aims at clarifying the contents of support for DIY by architectural organizations and the consciousness to DIY of the people who receive the support. By the result, the role of support towards the adequate promotion and popularization of DIY is examined. The results of this study are as follows ;

- 1) Various architectural organizations' support have an effect in improvement in the capacity for work of DIYer, or acquisition of knowledge.
- 2) The needs of DIYer and support are not in agreement.
- 3) Even if interested in DIY, capacity for work may not follow.
- 4) DIYer is holding various anxiety.

キーワード： DIY, セルフリノベーション, 支援

Keywords: *Do it yourself, Self-renovation, Support*

1. 研究の背景と目的

1.1 研究の背景と目的

わが国では、1970年代にホームセンターが出現した後、1977年に日本DIY協会（現在の一般社団法人日本ドゥ・イット・ユアセルフ協会）が組織されDIY（Do-It-Yourself）の普及に取り組んできた。近年、そのDIYの対象が賃貸住宅市場にまで広がりつつある。例えばUR都市機構は、退去時の原状回復義務を免除し、プランニングや施工期間として3ヶ月の家賃を無料にする「DIY住宅」の提供を始めた。また2016年4月には、国土交通省がガイドブック「DIY型賃貸借のすすめ」を公表し、借主の意向を反映した住宅改修を行うことができるDIY型賃貸借契約の促進を図っている^{注1}。さらにDIYはインテリア雑貨の製作から小規模な住宅リフォームまで範囲が広がっている現状もある^{文1}。

このようなDIYの拡大の動きと平行して、多様な建築関連事業者が壁塗り体験会などDIYに関わる様々なイ

ベントを開催したり、木工教室などの事業を展開しており、一般の人がDIYに関する情報を入手したり技術や知識を学ぶ機会は増加していると言えるだろう。また、DIYという言葉には自己責任という意味合いが含まれるものの、特に小規模な住宅リフォームまで発展すると素人による不適切な工事が重大な事故を誘発する可能性があるため、DIYに関する正しい知識や技術を学ぶことの重要性は増している。また、DIYに関心を持ち実践しようとした人でさえも作業場所の確保や工具の準備、施工技術など多くの不安を抱えていることが予想され、DIYを適切に促進するためには、DIYを実践する人（以下、DIY実施者）に対して適切な支援が求められる。

そこで本研究では、DIYの適切な促進、普及に向けた多様な主体によるサポート（以下、サポート^{注2}）のあり方を検討するため、建築関連事業者によるサポートの実施状況とそのサポートを利用する者^{注3}のDIYに対する意識を明らかにすることを目的とする。

*1 大阪大学大学院工学研究科 助教, 博士 (工学)

*2 パナホーム株式会社, 修士 (工学)

*3 大阪大学大学院工学研究科 教授, 博士 (工学)

*4 大阪大学大学院工学研究科 講師, 博士 (工学)

Assis. prof, Graduate School of Eng., Osaka Univ., Dr. Eng.
PanaHome co., Mr. Eng.

Professor, Graduate School of Eng., Osaka Univ., Dr. Eng.

Lecturer, Graduate School of Eng., Osaka Univ., Dr. Eng.

1.2 DIYに関する既往研究

DIYの普及や定着に向け、DIY実施者に対して技術支援などを行っているホームセンターを対象として、そのホームセンターが担う役割や可能性を示した研究として山崎による研究^{文2}、三藤らの研究^{文3}がある。また、近年増加しつつあるURや公的賃貸集合住宅におけるDIYを対象としてDIY実施者の意識について分析を行った福地ら^{文4}、菊池ら^{文5}、江川ら^{文6}の研究などもある。

本研究では、技術等のサポートの提供者としてホームセンターだけではなく近年数多く見られるようになった建築関連事業者も対象としてサポートの実施状況を明らかにする点、また、賃貸住宅のDIY実施者に限定せず、サポートの利用者を対象とする点を特徴とする。

2. 研究の流れと方法

2.1 建築関連事業者によるサポート

DIY関連のイベントの開催、作業場所や工具の貸出など、サポートを実施している関西の建築関連事業者をホームページから検索する。それらの事業者による具体的なサポートの内容やDIY促進に対する意識を明らかにするために、事業者に対して聞き取り調査を行う。その結果、13事業者が抽出でき、7事業者から聞き取り調査の協力を得ることができた。事業者一覧を表1に示す。

聞き取り調査項目は、(1)サポートの内容、(2)事業所の主要事業とサポートの関係、(3)サポートで重要視することと課題、の3点である。

2.2 サポートを利用した人のDIYに対する意識

聞き取り調査への協力が得られた7事業者に対して、開催しているサポートの利用者への聞き取り調査を依頼し、5事業者から協力の承諾を得ることができた。その結果、25人のサポートの利用者に対して、アンケート調査と、3～4人のグループインタビューを行うことができた。調査対象者一覧を表2に示す。アンケート調査の調査項目は、(1)サポートを受ける前後の知識と技術力、(2)DIYを行うにあたって重要視することや不安、(3)住宅の所有形態や家族構成などの個人属性、の3点であり、選択式の設問のみとする。グループインタビューにおいて、アンケート結果の主に(1)、(2)について詳細にインタビューを行う。

3. サポートを実施する建築関連事業者の意識

3.1 サポートを実施する建築関連事業者

表1によると、サポートは、ホームセンターだけでなく、施工を主要事業とする工務店、家具や内装材の販売を主要事業とする事業者など、様々な分野の事業者が取り組んでいることがわかる。

表1 DIYのサポートを行っている建築関連事業者

事業者	主要事業	DIYサポートの内容				サポート開始年月	対象者	聞き取り調査概要 調査日時
		内容	随時	単発 ^{注2}	連続 ^{注2}			
工務店A	建築施工	木工WS(クラフト、家具の製作)	×	○	×			
工務店B	建築施工	木工WS(クラフト、家具の製作)	×	○	×			
工務店C	リフォーム施工	木工WS(クラフト、家具の製作)	×	○	○	2015.4	代表取締役	2015/8/3(月)14:00～16:00
工務店D	リフォーム施工	木工WS(クラフト、家具の製作)	×	○	×	1995.7	店舗責任者	2015/8/28(金)18:00～19:00
内装材店E	内装材販売、施工	壁紙貼りWS(クラフト、壁紙貼り)	×	○	×			
木工教室 ^{注1}	木材販売	木工教室、木工WS(クラフト、壁紙貼り)	×	○	○	2015.1	総括責任者	2015/7/30(木)13:00～17:00
木工教室G ^{注1}	木材販売	木工教室、木工WS(クラフト、壁紙貼り)	×	○	○	2015.5	代表取締役	2015/8/5(水)14:00～15:00
設計事務所H	建築設計	木工WS(住宅の修繕、改修)	×	○	○			
金物店I	金物販売	木工、溶接WS(クラフト、家具の製作、壁塗り)	×	○	○	2014.4	経営企画室	2015/8/27(木)15:00～18:00
家具店J	家具販売	壁塗りWS	×	○	×	2011	代表取締役	2015/12/2(水)15:30～17:00
ホームセンターK	日用雑貨、住宅関連の販売	作業場、工具の提供	○	×	×			
ホームセンターL	日用雑貨、住宅関連の販売	作業場、工具の提供	○	×	×	不明	フロア長	2016/1/6(水)14:00～15:00
ホームセンターM	日用雑貨、住宅関連の販売	作業場、工具の提供	○	×	×			

注1)木材販売が主要事業である企業のグループ会社の一つとして木工教室を運営している

注2)「単発」とは1回で完結するイベントを指し、「連続」とは複数回の企画に連続して参加することを前提にしたイベントを指す。



工務店 C

木工教室 F

金物店 I

ホームセンター L

写真1 建築関連事業者が実施しているDIYサポートの作業場

3.2 サポート内容と目的

実施しているサポート内容とその目的を表3に、サポートの種類とサポートの講師や担い手を表4にまとめる。サポート内容(表3)の分類は参考文献1を参考にDIYの難易度順に作成し、雑貨の制作という比較的容易な内容から難易度の高い内窓の取り付けまでに分類している。また、提供するサポート(表4)は、イベントや教室、作業場所の貸出などのサポートを通じて提供しているサービスを9項目に分類する注4。

2 木工教室では、会員を対象としたサポートおよび連続コースを中心としたサポートを実施している。これは、木工教室以外の事業者の多くは「ものづくりへの興味のきっかけづくり」など動機付けが目的になっているのに対して、木材販売が主要事業の事業者が実施する2木工教室は、いずれも「木材への正当な価値観や評価」を目的のひとつとして掲げており、木材についての学習や理解を目的としているため、単発イベントよりも連続した企画が適しているためと考えられる。また、2木工教室のサポート内容は、「雑貨」と「家具」に特化しており、住宅本体へのDIYサポートは行っていない。7事業者による住宅本体へのDIYサポートは、壁の貼り替え、塗り替えや造り付けの棚の

表2 調査対象のDIYサポートと利用者

事業者	調査日	内容	回答者属性			住宅			技術力注2				
			性別	年代	職業	住宅形態	所有形態	原状回復義務注1					
工務店C	2015.11.17(火)	キッチンラック製作 ・電動ドライバー ・単発	A	女	50代	無職/退職者	共同	持ち家	×	中級			
			B	女	40代	専門/技術職	共同	持ち家	×	初級			
			C	女	30代	専門/技術職	共同	持ち家	×	中級			
			D	女	30代	専門/技術職	戸建て	持ち家	×	中級			
工務店D	2015.11.25(水)	ラダーシェルフ製作 ・電動ドライバー、木槌、鋸 ・単発	E	女	30代	自由業	戸建て	持ち家	×	上級			
			F	女	40代	専業主婦	共同	持ち家	×	中級			
			G	男	40代	自営業	共同	賃貸	×	初級			
			H	女	20代	専業主婦	共同	賃貸	○	中級			
			I	女	50代	専業主婦	戸建て	持ち家	×	中級			
木工教室F	2015.12.10(木) 2015.12.12(土)	各自の自由製作 (小物からテーブルまで多様) ・電動ドライバー、鋸、鉋、丸鋸、旋盤等 ・3回もしくは9回の連続コース	J	女	60代	専業主婦	戸建て	持ち家	×	上級			
			K	女	40代	専業主婦	戸建て	持ち家	×	中級			
			L	女	30代	専業主婦	長屋	賃貸	○	上級			
			M	男	60代	無職/退職者	戸建て	持ち家	×	上級			
			N	男	60代	無職/退職者	戸建て	持ち家	×	上級			
			O	女	50代	公務員	共同	持ち家	×	中級			
			P	女	30代	事務職	戸建て	持ち家	×	中級			
			Q	男	30代	専門/技術職	共同	賃貸	-	中級			
			R	女	30代	専門/技術職	共同	賃貸	-	初級			
			S	女	40代	自営業	共同	持ち家	×	上級			
家具店J	2015.12.19(土)	特定塗料を使った壁塗り体験 ・刷毛 ・単発	T	女	30代	専門/技術職	共同	賃貸	○	中級			
			U	男	30代	専門/技術職	共同	賃貸	○	中級			
			ホームセンターL	2015.12.23(水) 2015.12.27(日)	店舗購入した材料で製作、加工 ・電動ドライバー、旋盤等 ・営業時間内の自由利用	a	女	20代	学生	共同	賃貸	○	上級
			b			男	30代	専門/技術職	共同	賃貸	○	中級	
c	男	40代	専門/技術職			共同	賃貸	-	上級				
d	男	40代	大学教員			戸建て	持ち家	×	上級				

注1)本人の認識による。「○」:原状回復義務有り「×」:原状回復義務無し「-」:不明

注2)初級…簡易的な工具使用 中級…電動ドライバー等の工具使用 上級…大型電動工具使用

表3 建築関連事業者が実施しているサポート内容

事業者	サポート実施の目的 (DIYイベントなどの開催目的 作業場所などの提供目的)	実施している サポート内容	サポートの種類												
			雑貨 ・小物の制作	家具・建具 のリメイク	貼 替 え ・ ふ す ま の 制 作	障 子 の 取 り 替 え	家具 の 制 作	壁 の 貼 り 替 え ・ 貼 替 え の 替 え	フ ロ ア リ ン グ の 貼 替 え	取 納 の 付 け 加 工	取 り 替 え の 棚	洗面 器 の 取 り 替 え	ウ ッド デ ッキ の 製 作	内 窓 の 取 り 付 け	
工務店C	信頼関係の構築 住み手の家への興味のきっかけづくり DIYとプロ施工の精度差への理解 女性の活躍の場の提供 地域交流の場の提供	塗装や左官体験の教室や、棚の製作など一般向けのワークショップを週1回程度開催する。原則として単発コースである。	○	×	×	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×
工務店D	信頼関係の構築 インテリアへの興味のきっかけづくり 建築技術に対する正当な評価	月に数回、一般向けの単発のワークショップを開催する。	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
木工教室F	「木」を使ったものづくりの定着 国産の木材への正当な価値観や評価 林業への正当な評価	一般向けの、木工キットを使った製作(単発コース)から、会員向けの専門的な技術習得を目的とした連続コースまで6コースある。	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
木工教室G	「木」を使ったものづくりの定着 木材への正当な価値観や評価 木工製品の技術力に対する正当な評価	一般向けのワークショップ(単発コース)から、会員向けの自由に製作する連続コースまで6コースある。	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
金物店I	ものづくり文化の定着 体験の場の提供	雑貨の製作から木工、溶接、ガーデンリングなど、ほぼ毎日、単発のワークショップを開催する。	○	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
家具店J	インテリアへの興味のきっかけづくり 特定の塗料の販売前講習	月に1回、一般向けの壁塗装のワークショップを開催する。	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×
ホームセンターL	ものづくりへの興味のきっかけづくり	店舗で購入した商品の加工(工具貸出無料)ができる作業場所を店内に設置している。一般向けに工具貸出(有料)もある。	・DIY作業場所の提供と工具の貸出 ・DIYアドバイザーによる助言												

凡例 ○:サポートで扱う作業内容 ×:サポートで扱わない作業内容

表4 サポートの種類とサポートの講師や担い手

事業者	提供するサポート									サポートの講師、担い手	講師らの技術力
	作品の 情報 提供	デザ イン の 情 報 提 供	材 料 の 情 報 提 供	工 具 の 指 導	施 工 方 法 の 指 導	作 業 場 所 の 提 供	保 管 場 所 の 提 供	相 談	工 具 の 貸 出		
工務店C	○	○	○	○	○	○	×	○	○	社員(職人3人、プランナー6人)	
工務店D	○	×	○	○	○	×	×	○	×	社外の大工、クリエイターなど	
木工教室F	○	×	○	○	○	○	○	○	○	社員(職業能力開発校の木工科を卒業した講師や、木工科の指導員経験者など)	職能により、住宅は対象外
木工教室G	○	×	○	○	○	○	○	○	○	社員(技術系の専門学校を卒業した講師など)	職能により、住宅は対象外
金物店I	○	×	○	○	○	○	×	○	○	店員、社外のクリエイター(開催割合は、店員:社外講師=1:2)	店員は工具メーカーの講習を受講
家具店J	×	×	○	×	○	×	×	○	○	社員	建築士の資格を有するため、住宅に関する相談が可能 店員3名がDIYアドバイザーの資格を有する
ホームセンターL	×	×	○	○	○	○	×	○	○	店員	

凡例 ○:サポートで提供している ×:サポートで提供していない

制作にとどまり、フローリングの貼り替えやウッドデッキの製作等は行われていない。

提供するサポートとして、材料の情報提供、施工方法の情報提供、相談はすべての事業者が提供しているとしている一方、デザインの情報は工務店 C のみが提供している。作品や工具の一定期間以上の保管場所は 2 木工教室のみが提供しているが、これは会員向けのサービスである。

サポート実施の目的については、DIY の体験を通して「興味のきっかけづくり」もしくは「商品に対する正当な価値観を持つこと」につながることを期待していることは 7 事業者に共通しており、さらに一部の事業者は受注や商品の購入につながることも期待している。

サポートの講師や担い手を見ると(表 4)、社外の大工やクリエイターを招いているのは、工務店 D と金物店 I である。いずれも単発のワークショップである。単発のワークショップであっても、定期的に様々な内容のワークショップが開催され、特定の技術や知識習得に特化しないことは、サポートの利用者にとっては DIY の関心を広げるよい機会であると考えられる。一方で、単発かつ社外の講師であれば、信頼関係を築き気楽に DIY の相談をするような関係になりにくい可能性がある。また、2 木工教室は、木工の専門的な技術を有する社員が講師を務めているが、その職能により、住宅に関わるサポートは対象外となる。一方で、家具店 J では、主要事業は家具やインテリア用品の販売であるが、壁塗りワークショップを開催し、社員が建築士の資格を有することから住宅に関する相談にも対応できる。工務店 C では、職人とプランナーがワークショップを担当し、ワークショップも雑貨の製作から造り付けの棚の製作や左官体験など幅広く開催している。このような幅広い DIY サポートは、利用者の関心事の範囲を広げうる好例と考えられる。

3.3 サポート実施の際に重要視していること

サポート実施の際に重要視していることについては、以下の 3 種類に集約される。

(1) 商品(木材)の価値を理解すること

林業の現状と木材の等級や種類について理解してもらうと同時に、木工で使われている技術力の高さを理解してもらうことで、DIY サポートの利用者に対し木工品に対して正当な価値観を持ってもらいたいと考えている。

2 木工教室が該当する。

(2) 交流により信頼関係を構築すること

指導者(社員)とサポートの利用者の交流により事業者

として信頼関係を築くことで仕事につなげる、またはサポートの利用者同士の交流によって地域交流の場として活性化^{注5}していくことを考えている。工務店 C、木工教室 F、家具店 M、ホームセンター J が該当する。

(3) 安全な工具の使い方を習得すること

今後 DIY が広まるにつれ、一般の人も業務用の工具を使う機会が増えると考えられるが、これらの工具は怪我や大きな事故に繋がる恐れがあるため、安全な工具の使い方を広めなければならないと考えている。工務店 D、金物店 L が該当する。

以上のように事業者の立場によって重要視することは異なっている。

3.4 建築関連事業者からみたサポートの課題

DIY 促進のためのサポートにおける課題を、表 5 にまとめる。技術レベルが様々である参加者のニーズ、サポートの目的、サポート内容の合致などが課題として挙げられている。また、ホームセンター L からは、作業内容によって資格が必要であることを DIY 実施者が知らないことへの危惧が指摘されており、この点については、適切な DIY 促進のためには正しい知識の獲得が欠かせないことを裏付ける指摘といえる。

4. DIY サポート利用者の DIY に対する意識

4.1 DIY サポート利用者の属性

表 2 のサポートの利用者属性をみると、木工教室やワークショップは 21 名中女性が 16 名(76.2%)を占める一方、ホームセンターの作業場所は 4 名中女性は 1 名のみであることがわかる。事業者への聞き取り調査からも、イベントへの参加は女性が多く、作業場所の利用は男性が多い傾向がある。

4.2 DIY サポート利用者の知識と作業実施能力

DIY サポートを利用した人の DIY に関する知識の情報源の種類、そして建築関連事業者によるサポートの利用前後の DIY 実施者の知識と能力を明らかにすること

表 5 建築関連事業者からみたサポートの課題

事業者	課題の内容	分類
工務店 C	DIY 実施に興味を持ってもらうためのワークショップの内容	サポート内容
	多様な人を呼び寄せる術を模索中	広報
工務店 D	WS の参加者の技術レベルに合わせた WS の提案と指導方法	サポート内容
	店舗の個性の広告方法と集客方法	広報
木工教室 F	日本全国で均一な質の WS や指導を実施する方法の模索	サポート内容
	木工教室の生徒を集める為の価格設定と運営費の確保	運営
木工教室 G	木材の正当な価値観を伝える方法の模索	サポート内容
金物店 I	DIY 実施者が更に一つ上の作業に挑戦する為のサポートの模索	サポート内容
家具店 J	告知の仕方は悩むが、無理に集めるものではない	広報
ホームセンター L	資格を持たない人が DIY できる作業範囲について知識が不足している	DIY 実施者の課題

で、建築関連事業者によるサポートの、DIY サポートの利用者にとっての効果を考察する。

DIY サポートの利用者の DIY に関する情報源を図 1 に示す。全体的に Web サイトからの情報を多く、続いて、家族・友人や WS・教室という「人」を介した情報収集も多いことがわかる。ただし、ホームセンターの作業場所を利用した人は、Web サイトと書籍のみであった。

続いて、参考文献 1 を参考にした DIY の難易度順の作業内容について「DIY で施工可能な作業内容だと知っている」という状態を「知識あり」、「実際に自分で施工ができる」という状態を「作業実施能力あり」とし、サポートの利用前後の知識や能力の変化をたずねた。その結果を図 2 に示す。知識はあるが、作業実施能力までは至らない作業内容が多いこと、サポートを通して知識や作業実施能力が全体的に増加していることがわかる。ウッドデッキの製作や内窓の取り付け等サポートの内容や作業場所での助言に関係しない作業内容において知識や作業実施能力が増加しているが、これは他の利用者との情報交換やイベント等での指導や説明などから、自信をつ

けている可能性がある。一方で、給配水管の接続を伴う洗面器の取替え、水平の確保が求められるフローリングの貼り替えやウッドデッキの製作については作業実施能力がある人はほとんどいなかった。

次に、サポート利用前の技術力のレベルや参加したイベントの種類別にみた、新たに獲得した知識や作業実施能力を表 6 に示す。サポート利用前の技術力が中級の人にはサポート利用によって知識を得た人が多いが、上級の人には作業実施能力を得た人が多い。これは、上級の人には基礎的な作業実施能力が備わっており、わずかな情報でも作業内容や工程をイメージしやすいためと考えられる。一方、初級者はサポート利用によって新たに得た知識や作業実施能力はわずかである。これは、事業者からみたサポートの課題(3.4)でも指摘された、技術レベルが様々である参加者のニーズに対応したワークショップの難しさとも関連していると考えられる。また、イベントの種類別にみると、木工教室に参加した人は多くの知識や作業実施能力を得ていることがわかる。これは木工教室が連続した講座であることが要因として考えられる。

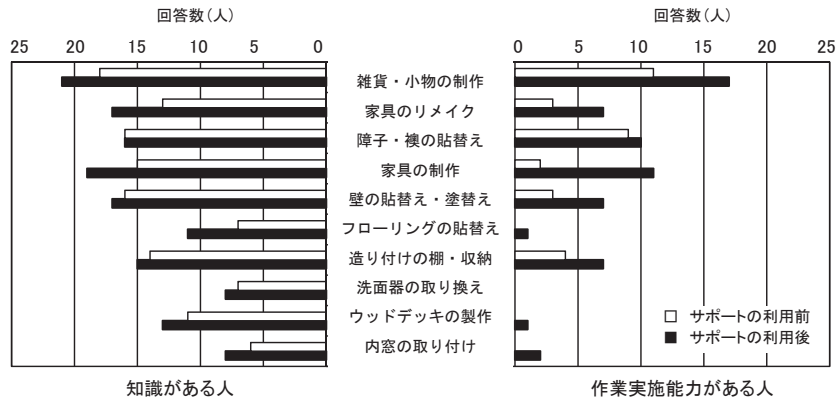
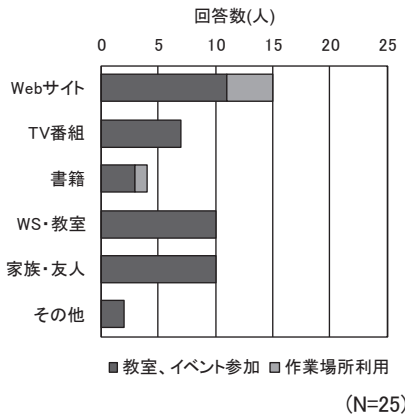


図 1 サポートの利用者が使用する情報源

図 2 サポート利用前後のDIYに関する知識の有無と作業実施能力 (N=25)

表 6 サポート利用による「知識」や「作業実施能力」の獲得

		サポート利用によって「知識」を得た作業						サポート利用によって「作業実施能力」を得た作業									
		サポート利用前の技術力			参加したイベントの種類			合計[人]	サポート利用前の技術力			参加したイベントの種類			合計[人]		
		初級	中級	上級	木工WS	木工教室	壁塗りWS		初級	中級	上級	木工WS	木工教室	壁塗りWS			
		3人	12人	6人	9人	7人	5人		3人	12人	6人	9人	7人	5人			
雑貨	雑貨・小物の制作	1	1	1	1	2	0	3	3	0	3	3	1	5	0	6	6
家具・ 建具	家具のリメイク	0	4	0	2	1	1	4	8	0	2	2	1	3	0	4	14
	障子・ふすまの貼替え	0	0	0	0	0	0	0		0	0	1	0	1	0	1	
	家具の制作	1	2	1	2	2	0	4		1	4	4	2	7	0	9	
住宅	壁の貼替え・塗替え	0	1	0	0	0	1	1	11	0	2	2	0	1	3	4	11
	フローリングの貼替え	1	3	0	2	1	1	4		0	0	1	1	0	0	1	
	造り付けの棚・収納の追加	0	0	1	0	1	0	1		0	1	2	0	3	0	3	
	洗面器の取り換え	0	1	0	0	1	0	1		0	0	0	0	0	0	0	
	ウッドデッキの製作	0	1	1	0	2	0	2		0	0	1	1	0	0	1	
	内窓の取り付け	0	1	1	1	1	0	2	0	0	2	1	1	0	2		
合計[延べ人数]		3	14	5	8	11	3	22	1	12	18	7	21	3	31		
備考					単発	連続	単発					単発	連続	単発			

4.3 利用目的とDIY実施の際に重要視するもの

サポートを利用する目的とDIY実施の際に重要視することを比較することで、サポートの利用者がサポートに求めるニーズについて考察する。サポートを利用する目的とDIY実施の際に重要視すること^{注4}の比較を図3に示す。図3によると、「作品の情報提供」以外の項目は、DIYを実施する際に重要視するが、サポートの利用目的にはなっていない。つまり、サポートの利用者は、DIYを実施するにあたって相談あるいはデザイン、材料の情報を重要視しているが、DIYイベントなどのサポートがそれらを獲得することができるとは必ずしも認識していないことが読み取れ、DIY実施者のニーズとサポートが一致していない可能性がある。

3.2で述べた事業者が提供しているサポートと比較すると、事業者が提供していると認識し、かつ利用者はDIYを実施する際に重要だと思っている相談相手や材料の情報は、サポートの利用目的にはなっていないことから、提供側と利用側のサポートに対する認識にずれがあることがわかる。

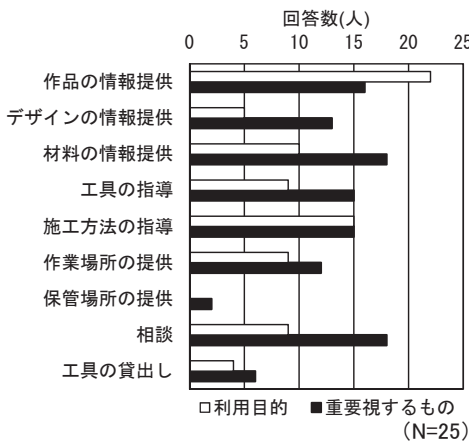


図3 サポートの利用目的と重要視するもの

4.4 関心のある作業内容

現住宅の原状回復義務の有無別にみたサポート利用者の関心のある作業内容を図4に示す。原状回復義務のある住宅に住むサポートの利用者も、住宅の修繕・改修に関わる作業内容に関心を持っていることがわかる。

属性別にみたDIYの作業内容に対する関心と作業実施能力の有無を表7に示す。DIYには作業内容の難易度によってレベルがあるものの、調査対象が木工教室や壁塗りWSの参加者であったこともあり、雑貨、家具、壁の塗替えに対する関心および作業実施能力が高くなっている。また、関心があるものの作業実施能力がない段階(段階2)が、フローリングの貼替えでは32.0%、壁の貼替え・塗替えでは28.0%など、住宅全体で24.7%あり、関心はあるが、作業実施能力を習得するまで至っていない人が一定数あることがわかる。

4.5 DIYに対する不安

DIYに対する不安を表8に示す。単発の木工WS参加者からは、雑貨、家具・建具の製作において、工具の使い方、材料や施工方法の知識不足など多くの不安が挙げ

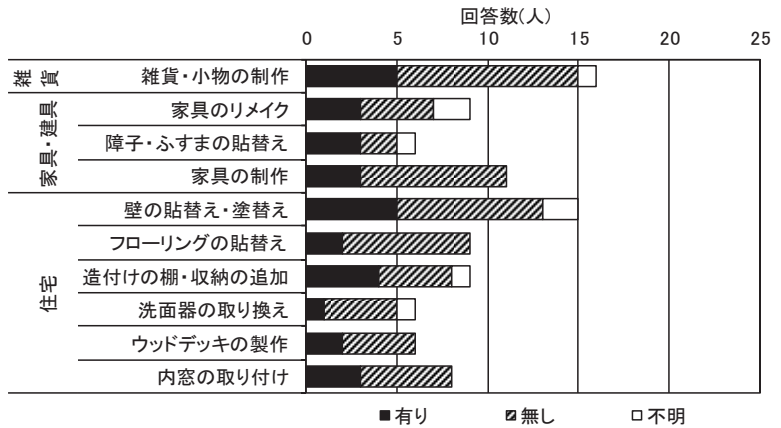


図4 現住宅の原状回復義務の有無別にみた関心のある作業内容(N=25)

表7 関心のある作業内容と作業実施能力

内容	原状回復義務有り														原状回復義務無し														不明		割合(%)		
	賃貸							持ち家							賃貸							持ち家											
	女				男			女				男			女				男														
	H	L	T	a	U	b	G	A	B	C	D	E	F	I	J	K	O	P	S	M	N	d	R	Q	c	段階1	段階2	段階3					
雑貨	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	36.0	12.0	52.0						
家具・建具	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	64.0	16.0	20.0						
	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	76.0	8.0	16.0						
住宅	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	56.0	4.0	40.0						
	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	40.0	28.0	32.0						
	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	64.0	32.0	4.0						
	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	64.0	20.0	16.0						
	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	76.0	24.0	0.0						
■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	76.0	20.0	4.0							
■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	68.0	24.0	8.0							

□...段階1 関心がない
 ■...段階2 関心はあるが作業実施能力は無い
 ■...段階3 関心があり作業実施能力もある

表 8 DIY サポートの利用者が抱えている不安

内容	雑貨、家具・建具の製作	住宅の修繕・改修
イベント	木工WS 工具の使い方(3名) 材料の知識不足(3名) 施工方法の知識不足(3名) 質の確保(2名) 費用(2名) 作業場所の確保(1名) 保管場所の確保(1名) 相談相手の存在(1名) 作業時間(1名)	施工方法の知識不足(5名) 質の確保(3名) 相談相手の存在(2名) 作業時間(2名) 作業場所の確保(1名) 保管場所の確保(1名) 協力者の存在(1名)
	木工教室	施工方法の知識不足(4名) 作業時間(2名) 材料の知識不足(1名) 協力者の存在(1名) 質の確保(1名)
	壁塗りWS	質の確保(3名) 保管場所の確保(1名)
作業場所利用	質の確保(2名) デザインの知識不足(1名)	施工方法の知識不足(2名) 質の確保(2名) デザインの知識不足(1名) 相談相手の存在(1名)

られたが、連続回の木工教室ではほとんど聞かれなかった。講師との関係や連続した学習により、不安が減少していると考えられる。一方で、デザインの知識不足は木工教室だけでなく壁塗りWSや作業場所利用でも不安として挙げられていることから、DIYを促進する上で障壁になっている可能性がある。同様の不安が、住宅の修繕・改修で挙げられている「質の確保」である。雑貨等とは異なり、費用面においても生活の質への影響においても大きくなる壁や床、造り付け棚など住宅の修繕や改修に関わるDIYでは、自分で施工することに満足を感じる段階を超えて質を求めざるを得ず、不安として挙げられている。

5. まとめ

本研究により明らかになった建築関連7事業者によるDIYサポートの実施状況とDIY促進に向けた意識、およびそのサポート利用者のDIYに対する意識を以下にまとめる。

5.1 サポートを実施する建築関連事業者の意識

- (1) 工務店や金物店、家具店など様々な建築関連事業者が主要事業の専門性に合わせてDIYのサポートに取り組んでいる。
- (2) サポートの内容は各事業者の実施目的や講師の職能によって異なり、雑貨製作から住宅改修までDIYの作業全般を網羅するサポートはない。
- (3) 材料や施工方法の情報提供、相談はすべての事業者が提供しているが、デザインの情報提供は少ない。
- (4) サポートの主な目的は、住宅等への興味のきっかけづくりと商品に対する正当な価値観を持つことである。
- (5) サポートで重要視していることは、商品の価値への理解、交流による信頼関係の構築、工具の安全な使用方

法の習得の3点である。

- (6) サポートの課題として、技術レベルが様々である参加者のニーズ、サポートの目的、サポート内容の合致が挙げられ、内容を模索中である事業者が多い。

- (7) DIY促進の課題として、DIY実施者の資格要件に対する知識不足が指摘された。

5.2 DIYサポート利用者のDIYに対する意識

- (1) DIYイベントへの参加は女性の方が多く、作業場所の利用は男性が多い傾向がある。
- (2) サポートを利用することにより、サポートとは関係がないDIYの知識や作業実施能力も増加している。
- (3) サポートの利用者は、DIYを実施するにあたって相談あるいはデザイン、材料の情報を重要視しているが、DIYイベントなどのサポートによりそれらを獲得できるとは必ずしも認識しておらず、DIY実施者のニーズとサポートが一致していない可能性がある。
- (4) 事業者が提供していると認識している相談相手や材料の情報提供は、利用者がDIYを実施する際に重要だと考えているものの、サポートを利用する目的にはなっていないことから、提供側と利用側のサポートに対する認識にずれがある。
- (5) 原状回復義務のある賃貸住宅に住むサポートの利用者も、住宅の修繕・改修に関わる作業内容に関心を持っている。
- (6) フローリングの貼替え、壁の貼替え・塗替えは、関心はあるが作業実施能力を習得するまで至っていない人が約30%いる。
- (7) 連続回のサポートでは、多くの知識や作業実施能力を得ることができ、DIY実施にあたっての不安がほぼ解消されている。
- (8) 「デザインの知識不足」「質の確保」がDIY実施にあたっての不安として多く挙げられている。

以上の研究結果から、様々な建築関連事業者がDIYに関わるサポートを実施しており、そのサポートを利用するDIY実施者の作業実施能力の向上や知識の獲得には一定の効果があることが明らかになった。一方で、DIY実施者のニーズとサポートの不一致や、提供側と利用側のサポートに対する認識のずれの可能性があり、DIYの作業に関心があっても作業実施能力が伴わないこともあること、サポートの利用者であってもいまだ様々な不安を抱えていることも明らかになった。

今後、DIYの適切な促進、普及に向け、以下のような取り組みが必要であると考えられる。

- (1) 複数のDIYの作業内容を学習するサポートの充実
- (2) デザインや材料に関する情報提供の充実
- (3) DIYアドバイザー等の相談者の充実^{注6}
- (4) DIYで施工できる作業内容あるいは限界の周知

る研究, 2008.3

謝辞

聞き取り調査に快く応じてくださった事業者の皆様、アンケート調査とインタビューにご協力いただきましたDIYサポートの利用者の皆様に深く御礼申し上げます。

注

- 注1) 2014年3月、国土交通省は個人住宅の賃貸流通の促進策の一つとして貸主が修繕を行わず現状のまま賃貸し借主が自費で修繕やDIYを行う借主負担DIY型賃貸借を含めたガイドラインを公表した。その後、そのDIY型賃貸借契約を一般的に活用するための考え方と取り組み例を整理し、2016年4月、「DIY型賃貸借に関する契約書式例」と、DIY型賃貸借の活用にあたってのガイドブック「DIY型賃貸借のすすめ」を作成し、公表した。
- 注2) 本研究で扱うサポートとは、知識の獲得、製作の体験、技術の習得のみならず、第三者からの助言や、工具の貸し出し、作業場所の貸し出しなど、DIYを実践するにあたって受けるサービス全般を含むものとする。
- 注3) DIYに対して、関心を示さない人から積極的に実践する人まで様々である。DIYを適切に促進するためには、DIYに対して関心を持ってもらうことや、DIYに一定以上の関心を示した人が正しい知識や技術を習得することなど、様々な施策が必要になる。本研究では後者を対象とし、様々なDIYに関するサポートを自らの意思で利用した人を対象とする。
- 注4) サポートの種類は、参考文献1、2、6における調査項目を参照し、決定した。
- 注5) 2木工教室は、いずれも木材産業を主とする地域にあるため、産業振興も兼ねた地域交流の場としての狙いがある。
- 注6) 例えば西野ら⁷⁾の研究によると、セルフ・リノベーションが可能な賃貸共同住宅では承認主体(仲介業者や所有者)に改修申請を行う必要があることが多いと示されており、近年広がりを見せているDIY型賃貸住宅ではこれら仲介業者や所有者がDIY実施者にとって相談者になる可能性がある。このような方法による相談者の確保も一つのサポートの形として考えられる。

参考文献

- 1) リノベーション・ジャーナル, 新建新聞社・新建ハウジング, vol.3, 2014.3.30
- 2) 山崎古都子: 住宅に関する「DIY」普及のために必要な「ホームセンター」の機能, 日本建築学会計画系論文集, 第540号, pp.251-258, 2001.2
- 3) 三藤和輝, 方野博, 井上朝雄, 加藤康寛: DIYとホームセンターの関係(設置状況と取り扱い商品)~住宅改修・改善におけるユーザー支援のあり方に関する研究 その1~, 日本建築学会九州支部研究報告, 第46号, pp.129-136, 2007.3
- 4) 福地崇洋, 江川知里, 高田光雄, 野原俊介, 土井脩史: 住みこなしに着目した賃貸集合住宅居住者のDIYニーズ, 日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿), pp.1261-1262, 2014.9
- 5) 菊池沙耶, 井上朝雄: UR賃貸住宅におけるDIYの現状 住まい手による住空間の維持に関する研究, 日本建築学会九州支部研究報告, 第53号, pp.197-198, 2014.3
- 6) 江川知里, 高田光雄, 土井脩史: 堀川団地の住戸改修実験におけるイベント参加者のDIY意識・市街地型の公的住宅団地の再生に関する研究 その5, 日本建築学会学術講演梗概集(近畿), pp.1263-1264, 2014.9
- 7) 西野雄一郎, 横山俊祐, 徳尾野徹: 住み手からみたセルフ・リノベーションの特性と有効性: 賃貸共同住宅におけるセルフ・リノベーションの評価 その1, 日本建築学会計画系論文集, 第720号, pp.259-269, 2016.2
- 8) トステム建材産業振興財団: ホームセンターによる建材流通に関する研究, 2008.3